

✽ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ✽
 ~ 子どもの読書活動を推進しましょう ~

福岡市小学校図書館教育研究委員会の授業の紹介

11月25日（月）に、高取小学校の図書館で1年生の国語の授業がありました。

単元名を「ほんはともだち『むかしばなしが いっぱい』」とした3時間単元の第1次の授業は、次のような展開でした。

まず、子どもたちは、「にほんやがいこくのむかしばなしをよもう」というめあてを聞き、図書館の絵本や物語のコーナーを確認した後、担任の先生の前に座り、同じような昔話でも書名が違ったり、内容が少し違ったりした日本や外国のいろいろな昔話を聞きました。子どもたちは、昔話を紹介されるたびに、「えー」「おー」など驚きの声をあげていました。学校司書の先生の「3びきのこぶた」のストーリーテリングでは、全員が夢中になって話を聞いていました。終わって席に戻ると、配布されたブックリストの読みたい絵本の欄へ、丸印を勢いよく付けていました。

次に、他の小学校や学校図書館支援センターなどからも借りた2つの閲覧用机いっぱいの絵本を次々に読み、読み終わるごとに、ブックリストに書いた丸印を塗りつぶしたり、読んだ本の書名を書いたりしていました。

最後に、「今日の学習のまとめ」で読んだ本の感想を発表し、授業が終わりました。



(絵本を見せながら、ブックトークをする担任の先生)



(学校司書の先生のストーリーテリング)



(絵本を選ぶ子どもたち)



(絵本を一生懸命読む子どもたち)

先生の昔話の紹介に対する子どもの反応のよさや、全員が準備された昔話の絵本を積極的に手に取り読んでいたり、今日の学習のまとめで、読んだ絵本の感想だけでなくあらすじまできちんと発表したりしている姿など、先生のこれまでの指導の成果がよくわかる、図書館を活用したすばらしい授業でした。

さらに、先生方だけでなく学校司書の先生もいろいろ授業に関わっておられていることに頭が下がりました。



(参観する先生方)



(閲覧机に並べられた絵本)

1月生まれの文学者

瀬尾 まいこ（せお まいこ 本名 瀬尾麻衣子）と「卵の緒」

大阪府大阪市 1974年1月16日生まれ



瀬尾氏の中学校生活はあまり楽しくなかったのですが、国語の教員という仕事にあこがれており、先生になったら子どもたちが楽しく過ごせるような教室を作りたいと思っていました。

大谷女子大学文学部国文科を卒業後、中学校の国語の講師をしていましたが、正規の教員になりたくて、毎年教員採用試験を受けていました。なにか書いてみようと思ったのは26歳の時で、一人暮らしをはじめたので、一人の時間ができたからだそうです。

「卵の緒」は、親子の強く確かな絆を描く作品です。この作品を「公募ガイド」に掲載されていた原稿枚数などの募集要件の合う坊ちゃん文学賞に応募すると、大賞を受賞し作家デビューしました。

受賞後も講師を勤め、2004年採用試験に合格後も中学校の国語の教員をしながら執筆活動を続けましたが、2011年体調を崩して退職しました。

瀬尾氏は、登場人物をこんなふうに描こうなど細かいプロットを書くことはせずに物語を展開し、読んだ人がちょっとでもいい気持ちになれば、中学生はとつてもすてきな存在なんだという作品を書きたいそうです。

作品は、「幸福な食卓」（吉川英治文学新人賞）、「戸村飯店 青春100連発」（坪田譲治文学賞）、「そして、バトンは渡された」（本屋大賞）などあります。



木暮 正夫（こぐれ まさお）と「焼きまんじゅう屋一代記」

群馬県前橋市 1939年1月12日生まれ 2007年（没）

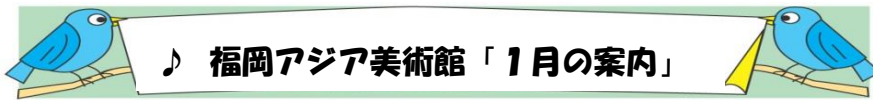
木暮氏は、修理が中心の小さなラジオ店の長男として生まれ、小さい時からアルバイトのようなどくをして一生懸命家計を助けてきました。ものを書いて生活していこうと思ったのは、小学校の高学年ぐらいで、父親が報道写真を撮り、それに文を書くようなことをしている姿にあこがれたからだそうです。卒業後の就職を考え前橋商業定時制高校に進学しましたが、珠算や簿記に関心が低く、文芸部に入り詩と小説に親しみました。

卒業後、上京していくつか職に就きましたが、1年で帰省しました。20歳の時、毎日児童小説コンクールで「光を呼ぶ歌」が1席に入選したことから本格的に児童文学作品を書くようになり、再び上京し、昼間は出版社や不動産業などの仕事をした後、夜更けまで詩や児童文学を読んだり、書いたりしたそうです。

23歳の時、東京の工場街を舞台とした「ドブネズミ色の街」で作家デビューしました。

「焼きまんじゅう屋一代記」は、江戸時代末期から明治中期ごろの激動時代に群馬県名物、串刺しの焼きまんじゅうを考案した創業者の物語です。

他にも、現実の子どもの姿を描いた「街かどの夏休み」（日本児童文学者協会賞）、河童やお化けが出てくるファンタジー「また七ぎつね自転車にのる」（赤い鳥文学賞）、歴史小説やノンフィクションといった取材に基づいた「ブータンの朝日に夢をのせて」など、児童文学作品を200冊ほど書いています。日本児童文学者協会の理事長・会長としてたくさんの本を編集し、また、若い作家を世に送るための様々な仕事をしました。



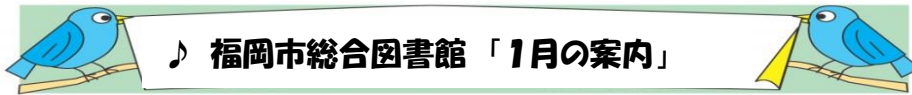
♪ 福岡アジア美術館「1月の案内」



*アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

12日(日), 14日(火), 26日(日), 28日(火)

- ・時間: 11:30~12:00, 13:00~13:30
- ・場所: 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)



♪ 福岡市総合図書館「1月の案内」



*毎月のおはなし会

5日(日), 11日(土), 12日(日), 18日(土),

19日(日), 25日(土), 26日(日)

- ・時間 土曜日: 11日, 18日

14:10~14:25 赤ちゃん向けおはなし会

14:30~14:50 幼児向けおはなし会

25日

14:30~15:00 幼児~小学生向けおはなし会

日曜日: 14:30~15:00 幼児向けおはなし会

15:15~15:45 小学生向けおはなし会

- ・場所 「こども図書館 おはなしの家」

☆ あとがき

新しい学習指導要領では、総則の教育課程の実施と学習評価で、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。」とあり、学校図書館の利活用を図ることが求められています。高取小学校での研究授業は、まさに学校図書館の利活用につながる授業だったと思いましたが、他校の学校司書の先生も参観しておられ、読書活動推進に対する意識の高さに感心しました。

瀬尾氏は、35歳の時に体調を壊して教員を退職した後、いずれ小さな子どもと関われるような仕事をしたいと考え、執筆を中断して2年間必死に勉強して保育士免許を取得しました。結婚後は子どもを育てながら、教員をしていた時とは違って、小さい子どもの小説を書いていたそうです。瀬尾氏が教員を退職後、執筆を中断してまで猛勉強して保育士の免許を取得されたことにびっくりしました。

発行: 福岡市教育委員会 生涯学習課

電話: 092-711-4655 FAX: 092-733-5538

図書館員のひみつの本棚 第164回

今月は映画化もされた話題作のご紹介です。

『ワンダー』

R. J. パラシオ／作 中井 はるの／訳 ほるぷ出版
2015年 1500円（税抜）

<お勧め年齢>

乳幼児—— 低学年—— 中学年—— 高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆ 一般☆
(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

あらゆる遺伝的な問題が重なって、27回の手術を受けても他の人と同じような顔にはなれなかった10歳の少年オーガスト。そんな彼が始めて学校に通うことになったところから物語が始まる。

頭脳は明晰、性格も魅力的な彼は、自分が学校でどんな目にあうか想像できたし、一方学校に通った方がいいことも理解していた。

学校生活は彼の心配をよそに順調だったが、ある日、親友だと思っていたジャックがいじめっ子たちと自分の顔についての悪口を話しているのを偶然聞いてしまう。

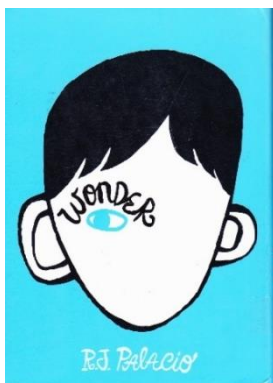
ここから後の物語は、語り手が変わり、オーガストの姉、女友達のサリー、そして裏切り者のジャックの視点から続きが語られる。

ジャックが語る物語の続きとは…。

<子どもに手渡す時のポイント>

各章ごとに語り手が変わること、ストーリーに奥行きがでて読みやすいと感じる子どももいれば、視点がどんどん変わっていくので、読みにくいと感じる子もいるかもしれません。紹介する際はこのような構成についても説明しておく、途中でつまずきにくくなると思います。

登場人物が全員魅力的で、読後感も爽やかな物語です。見た目の分厚さ(420ページ以上)から、手に取りづらくなっている面もあると思います。ぜひ、おすすめしてみてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。